

第3回 古賀市自治基本条例（仮称）策定委員会

- ・日 時：平成27年3月11日（水）19時～21時30分
- ・場 所：サンコスモ 201・202 会議室
- ・傍聴者：3名
- ・出席者
 - ・委員（名簿順・敬称略）：水田、宮本、二宮、矢部、柳武、篠崎、池端、高村、今村、吉田、保井、大神、横大路、本田、坂本、星野、片田、則元、最所、戸田、木庭、笠井、多田隈、櫻井（計24名） ※欠席者：河村、谷口、清水、中村、福岡、大谷（計6名）
 - ・事務局：地域コミュニティ室長、地域コミュニティ係長、地域コミュニティ係員
 - ・ファシリテーター：村田、今井（（株）エム環境デザインシステム）
- ・配付資料
 - 資料1：雑談から自治基本条例へ
 - 資料2：第2回策定委員会・自己紹介カード「委員さん同士、もう少しお互いを知ろう」
 - 資料3：自治基本条例だより第2号
 - 資料4：第2回古賀市自治基本条例（仮称）策定委員会会議録
 - 資料5：第2回古賀市自治基本条例策定委員会・感想カード
- ・会議内容：以下の通り

1. 開会

事務局：

（開会あいさつ、配付資料確認）

ファシリテーター：

策定委員会の最初の3回は研修という位置づけでやってきた。今回はその最後ということになる。次回は策定委員会の会長、副会長を選んだり、今後進めていくための体制づくりをして、少し仕切り直しをしたいと考えている。

（今回のプログラム（進め方の概略）の説明）

2. 「雑談から自治基本条例へ」～前回のカンタンな振り返りから市民共働による自治基本条例の つくり方をイメージしてみよう

ファシリテーター：

前回までやってきたことを元に、どんなふうにこの委員会で条例づくりを進めていくのか、より分かりやすく伝えたいと考えて今日の話を用意してきた。

（パワーポイント（資料1）に沿って、古賀市の自治基本条例づくりのイメージについて話）

○質疑応答

委員：

我々が条例案をつくったら、それはどこで市民意見を得ることになるのか。どこで誰が案を認め

ることになるのか。そこが見えない。

ファシリテーター：

最終的に案に OK を出すのは議会。

委員：

それでは議会で否決されるということもあり得るのか。

ファシリテーター：

可能性としては否定できない。

委員：

我々は案をつくって議会に出すということがミッションとなるということか。

ファシリテーター：

策定委員会の案は市長に出すことになる。(それを受けて)市長は議会に出す条例案の形に整えることになる。なお、まだ決まっていることではないが、策定委員会で案を検討している段階から、行政関係者や議会関係者と対話をしながら内容をつくっていく方がよりよい形になると思う。

委員：

市長に出して、市長が議会に出す案につくり変えて議会に提案して決まるということか。

ファシリテーター

そういうことです。

3. さらにお互い知り合いながら、まちづくりと今後の活動について語り合おう

ファシリテーター：

これまで自己紹介パート1、パート2とやってきたが、ただ自己紹介をしてきたわけではなく、今後の条例案の検討につながるネタ出しをしてきたつもり。今回もそういう考えで、委員さん同士がお互いのことをさらに知るために、テーブルのメンバーを入れ替えながら進めていきたい。(今回の進め方の説明～下記の手順で「話題1」、「話題2」をメンバーを入れ替えて話し合い)

①かんたんに自己紹介

②「話題カード」の記入

- ・話題1：古賀市がずっと住み続けたいと思えるまちであるために大切にしたいこと
- ・話題2：みんなで次世代に引き継げる古賀市であるために大切にしたいこと

③「話題カード」を一人ひとり読み上げて、模造紙にテープで貼り付け

④「話題カード」の内容をもとに話し合い、良いと思う意見等に○印や下線をつけたり、新たに出てきた発言等を模造紙に記録

4. 全体でみんなが話したことを共有し、今後へつなげていきましょう

～うちのテーブルのイチオシ・ニオシ・・・

5班：

話題1と2をまとめて発表する。

1番は、安心安全なまちをつくるということ。これは、あいさつの励行から始めたらいいのではないかという提案。

2番目は、古賀の自然を知ること。海がある。里山がある。今、海は利用されていない。里山があることも知らない人がいるが、いい里山がある。そういう自然を大切にすること。

3番目は、古賀の魅力を見つけるということ。歴史、観光、そういう情報を共有することが大事。

4番目は、古賀には良い施設がたくさんあるが、全部場所がばらばら。妊婦さんが利用する施設、育児に関する相談できる場所などを同じところにしたたり、それらをつなぐ交通網が欲しい。循環バスやコミュニティバスなどがいるのではないか。

ファシリテーター：

あいさつをするのが基本。いいものがあるが伝わっていない。活用する。施設についても同じ。

4班：

古賀の歴史を知ること。遺跡が出て有名になっているのに古賀市の学校の授業で教えていない。子どもが実際に遺跡を見学したりするようにしてほしい。できれば古賀市の教科書を教育委員会でつくっていただけませんか。

また、市民にも伝えてほしい。駅やスーパー等、人の集まるところに古賀市のいいところの写真を展示するなど。

自然、海や山などせっかくいいところがあるので、そういうところを大切にしたい。

古賀市の花がコスモスなのに、コスモスがない。

子ども達の遊べる施設がほしい。

ファシリテーター：

せっかくあるものが活かされていないし知られていない。特に子どもが知らない。学校などで、まずは自分達のまちを知ることから始めようということ。

3班：

前向きな話が出た後に、非常に後ろ向きな話。

地域とかコミュニティという話があるが、高齢化が進んでいる地域では、役員になること自体が嫌われている。新住民が地域にきた時も隣組に入らなくていいという人が多い。そういう現状があるという話で盛り上がった。

ではどうしたらいいのか？ということを考えていかなければいけない。後ろ向きな現状をどうしたら前向きに変えていけるかということ、今後考えていく必要があると思う。

ファシリテーター：

仁義を切るというか、地域に入る時の入り方のようなものもあると思う。一方、受け入れる側もガードが固かったりということもあるのかもしれない。よそから来た人はどうだろうか。

委員：

ものすごく分かるところもある。ママ友がない。前住んでいたところでは同世代の人がいて仲

良くしていたが、今は育成会にも入っているが、少し話をする程度。行事に参加してもポツンと離れている感じ。

ファシリテーター：

入る側の努力もあるかもしれないが、受け入れる側にも閉鎖的などの問題があるのかもしれない。開いていかないと情報も伝わらない。受け入れる側の体制、仕組み、入っていく側の積極性が両方重なればいい方向にいくのではないかな。

1班：

1つめは、資源や歴史を大切にしたいということ。前の班でも子どもが歴史について知る機会がないという話のように、私も会社に入ったことをきっかけに古賀に住むことになった時に、古賀について知る機会がない。そういう知る機会をつくったらいいと思った。

一番、話が盛り上がったのは、人とのつながりについて。人とのつながりをつくるには、人との交流の機会をつくるのが大切。具体的には世代間の交流の充実、同一趣味の人達の集まり、異業種の人達の集まり、どの世代でもみんなで楽しめるイベントをつくるという話が出た。また、課題として出たのは、どうやって集まるのか、どうやってイベントをすることについて広めるのかという意見が出た。交流の機会をつくることによって地域に知り合いが増えて、ここに定住したいと思えるまちになるのではないかな。

ファシリテーター：

ここに来て古賀市の色々なことを知ったという方が多い。知る権利とか、どうやって知ってもらおうかということは大事。交流や色々な人とのつながりをつくる場、つながるということは大事。静岡は健康寿命が一番だが、その要因は社会参加と言われる。色々な所に参加して、色々な人と話すことが大事。認知症もそうで、一番の敵はストレスとしゃべらないこと。

2班：

物を大切に作る、ゴミを捨てない、大人も子どももきちんとする。大人がゴミを捨てていたりすることもある。

古賀に関心を持ってない、どうやったらきっかけをつくれるのか、やりたいと思っている人を集めるといいのかな。

古賀に住んでいるのに、古賀についてのアナウンスがあまりない。広報を読めばという意見もあったが、もっと面白く魅力的な若者が読みたくなるようなものにならないかな。若者が広報を見るのは成人式で写真が出ている時くらい、親が見るのは子どもが出ている時くらい。それなら割引券とかつけてくれないかなといった意見も出た。長崎はグラバー邸ただというのが広報についているらしい。商業の利益とか問題があるかもしれないが、市役所で利益を生む割引券とかどうか。

ファシリテーター：

捨てる人は拾ったことがない人。ゴミ拾いの量で競うようなことをやっているところもある。桜島では灰を集めて競う。駅では灰を瓶に詰めて売ってたりもする。関心を持ってもらい、集まってもらうには、ということは大変。情報も見てもらいにはどうしたらいいかということが大事なので、それを考えていく必要があるのではないかな。特に若者がなかなか集まらない。ではどう

やって若者を集めるか、どうやって関心を持ってもらえるか。そういったことが古賀の魅力につながったり、よその人にも古賀のことを知ってもらうことにもつながるのでは。子どもの頃からまちを知ることを続けていくと、自分のまちはこんなにいいんだということになるような仕組みをつくる必要があるのではないか、そういったことが皆さんの話から浮かび上がった。

委員：

2班の前半では、子どもや孫など次の世代のために何かできると良いという話があった。それができると色々と枝葉のようにつながっていくのではないか。例えば、70歳くらいの人でも、昔なら孫が古賀にいて、孫の友達なども家に来るといったことがあったが、今はそうではなかったりする。一方、年配者で子ども達のために様々な活動をしている人もいる。そういう人の話を自分が子どもを持ったら聞かせたいし、自分自身も学ぶことがあるだろう。そういう地域社会を大事にしたい。

ファシリテーター：

今は子どもや孫につけ回しするようなことが多いが、まちの魅力を高めていくために次の世代にバトンタッチしていくようなことが、親同士の交流により伝えられていくことも大事だ。大人が手本を見せていくことが大事。

ファシリテーター：

次の日曜日、静岡県焼津市では、自治基本条例17条にある「まちづくり市民集会」が初めて開催される。そこで進行役を務めてくる。同じ日に愛知県新城市では「若者総合政策キックオフシンポジウム」という、市を挙げて進めている若者政策が本格スタートするイベントがある。新城市は人口5万人の市だが、200人とか300人を集めてしまう。口コミもちろんだが、無作為抽出で1000人、2000人に案内の手紙を出したり、考えられるあらゆる方法を使って人を集める努力をしている。人を集めるというのは、最もエネルギーが必要なことだが、新城市のように自治基本条例をつかって本気でまちづくりを進めているところは、人集めにもすごいエネルギーをかけているということはいえると思う。その上で、色々な人が出会い、話をし、情報共有をするということをしている。古賀市には古賀市なりの形があると思うが、自治基本条例をつかって、より多くの人が集まるようになったとか、今までより活発に色々なことが動くようになったとか、そういうきっかけになるものではないかと思う。

今回の記録は、次回以降話し合いを進めていくためのネタとして活かしていきたい。

次回は、策定委員会の会長、副会長を選出することをしたいが、こちらで誰かに決めておくようなやり方は一切せず、皆さんで選び、決めていただく進め方をしたいと考えている。

会長が決まったら、市長から委員会の役割について諮問していただき、新たなスタートを切るということとしたい。

5. おわりに

事務局：

(第4回策定委員会日程の確認…4月15日(水)19時から。会場：市役所 501・502・503 会議室)